

令和7年度学校経営計画に対する自己評価計画書

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
1 人1台端末の活用も含め、常に指導の工夫・改善を継続することにより、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向け、思考力、判断力、及び実社会で求められるコミュニケーション能力の育成を図るとともに、厳密で公正な学習成果の評価を行う。	① 県工学びのスタンダードと「R 8 0」を活用し、かつ学校研究の成果の拡充・継承を目指すことにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「県工 Thinking time」や「R 8 0」の取り組みが多く教科で定着しつつあり、効果も上がっている。また Chromebook を活用し意見交換や記述を求める授業にも取り組んでおり、これらの取り組みをさらに進め、学校全体の取り組みとしていくことが大切である。	【満足度指標】思考力、表現力が身についたと生徒自身が実感できることが、授業に対する満足度につながる。	「Chromebook を活用した意見交換や記述を求める授業」や「県工 Thinking time」、「R 8 0」などを通して、根拠をもとに論理的に発言したり、記述したりすることができるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 [継続] A 75%以上 B 65%～75%未満 C 55%～65%未満 D 55%未満	C以下の場合は、教務委員会、各教科等を中心に、目標提示および評価方法などを再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。(7月、12月)
	② 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善に取り組むことで、学習の定着を実現する。	教務課 各教科	家庭学習時間の減少や学習意欲の減退等の課題に対応する必要性が指摘されている。一方で、資格取得に向けた補習を学習時間ととらえていないなど学習に取り組んでいることを自覚していない生徒もいると思われる。	【満足度指標】予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 [継続] A 85%以上 B 75%～85%未満 C 65%～75%未満 D 65%未満	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 [継続] A 85%以上 B 75%～85%未満 C 65%～75%未満 D 65%未満	C以下の場合は、教務委員会、各教科等を中心に、意識付けの方法や課題の出し方を再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。(7月、12月)
	③ 授業の情報化推進の一環として、ICT機器の活用を促進し、学力の定着が実感できる授業を目指す。	学習情報課	全普通教室でプロジェクターを使用する環境が整い、ICT機器の活用が進められているが、授業において生徒が Chromebook を活用する授業に向けて工夫・改善を図る必要がある。	【努力指標】ICTを活用した公開授業等を実施し、研究協議会等での成果を授業改善に活かす。	1人1台端末の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 [継続] A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	C以下の場合は、学習情報課を中心に、ICT機器利用による研修のあり方を見直す。	生徒を対象に授業評価アンケートを実施する。(7月、12月)
2 規律遵守やマナーの向上を図る取り組みを通して、地域を担う職業人として高い規範意識を備えた生徒を育成する。	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に対応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	卒業後に実社会へ出ていく本校生徒にとって基本的な生活習慣である挨拶や時間の励行等については常に指導しているところである。確かに生徒は挨拶を行っているが、それは先に教師が挨拶をしているからであって、決して生徒が積極的に挨拶を行っているのではない。 将来の社会人としての基本的生活習慣の確立を目指し遅刻防止指導は引き続き取り組む必要がある。	【努力指標】人間性の溢れた活力ある校風を築くことを目指し、全校生徒が元気で爽やかな挨拶の励行を促す。 【成果指標】時間を守り、規律ある生活を送り、遅刻者が減少する。	日頃、生徒がしっかりと挨拶を行っているかどうかを、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 [継続] A 85%以上 B 65%～85%未満 C 45%～65%未満 D 45%未満 遅刻者数(実人数)減少の割合で判断する。 [継続] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	C以下の場合は、生徒指導課・学年団を中心に指導の改善を図る。	教師を対象に学校評価アンケートを実施する。(7月、12月)
	工場見学やインターンシップに参加することで職業人としての誇りとともに、安全管理を含めた高い規範意識を持ち、新時代の工業技術者としての基礎技能と実践力を育てる。	進路指導課	工場見学やインターンシップについては毎年している。しかし、座学や実習における課題の提出期限の遵守や作品の品質向上において更なる指導が求められる。	【努力指標】日頃の授業における課題提出期限(納期)の遵守や、作品(製品)の品質向上が実社会で求められる一つの規範であることを認識させる。	課題の提出期限の遵守及び画題の品質向上に積極的に取り組んだかどうかで判断する。 [新規] A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	C以下の場合は、活動の意義等についての啓発を図る。	参加生徒を対象に活動後にアンケート調査を実施する。(随時)
	② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	違反指導件数は、前年よりは減少した。しかし大事故につながらないよう更なる違反指導件数の減少を目指す。交通事故等防止に向け、警察と協働した全校的取り組みが求められる。	【成果指標】石川県警察が発表する月別の違反指導件数の減少を目指す。	違反指導件数(累計)減少の割合で判断する。 [継続] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	Dの場合は、生徒指導課を中心に、指導方法を再検討し、全校的な意識の変革を図る。	県警発表の件数で判断する。
③ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	全教職員が問題の未然防止に対する共通理解をさらに高め、きめ細かな指導、組織的対応を行い、未然防止に努める必要がある。	【努力指標】生徒に寄り添い、担任や関係職員と情報交換を図り、未然防止・早期発見に取り組んでいる。	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができていると思うかについて、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 [継続] A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は、指導方法を再検討し、全校的な意識の変革を図る。	教師を対象に学校評価アンケートを実施する。(7月、12月)	

重点目標	具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 専門的技能の習得をはじめ、資格取得や検定、コンテストに意欲的に取り組み、確かな進路実現につなげる。	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団		各学科に応じた求人数を確保し、企業が求める人材と生徒の資質や特性とのよりずれのないマッチングが求められている。	【成果指標】就職希望者の1社目受験での内定率をみる。	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。【継続】 A 90%以上 B 85%~90%未満 C 80%~85%未満 D 80%未満	C以下 の場合は、内容を分析し、次年度の進路指導に反映させる。	年度末に集約し、判断する。
	② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7学科 教務課		資格取得は専門高校における職業教育の中核となるものである。本校の資格・検定スタンダードを柱に据え、学科ごとに、より一層資格取得に取り組む必要がある。	【成果指標】ジュニアマイスター認定者数の状況をみる。	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。【継続】 A 70名以上 B 60名~70名未満 C 50名~60名未満 D 50名未満	Dの場合は、工業各学科で指導方法や指導内容を再検討する。	年度末に集約し、判断する。
4 学校行事や部活動等を通して、たくましい心と体を培うとともに、周囲と協働して取り組む意識を高め、社会性の向上を図る。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課		多くの生徒が部・同好会活動に意欲的に取り組んでいる。今後も部活動の目的や目標を顧問と生徒間で共有し、生徒が主体的に活動を続けるよう働きかけていくことが求められる。	【努力指標】部員が意欲的に部活動に取り組むことができるよう、部活動の内容の充実を図る。	部・同好会活動に意欲的に取り組んでいるかどうかを生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。【継続】 A 80%以上 B 70%~80%未満 C 60%~70%未満 D 60%未満	Dの場合は、部活動の内容充実に向けた方策を検討する。 (7月、12月ただし、12月は3年生を除く)	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月ただし、12月は3年生を除く)
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課		全ての学校行事を実施するにあたり生徒の活動している様子が保護者に伝わるよう、Webページやインスタグラムで積極的に公開していく必要がある。	【満足度指標】保護者の目から見た生徒の学校行事に対する満足度をみる。	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。【継続】 A 95%以上 B 85%~95%未満 C 75%~85%未満 D 75%未満	Dの場合は、部活動活性化に向けた方策を検討する。	年度末に集計し、判断する。
	③ 健康診断の事後処理の指導を強化し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課		昨年度も個別指導や担任、部活動顧問との連携により、歯科治療受診完了率が6割を超えた。(昨年度約65%) 今年度は、視力検査の治療受信完了率も向上するよう、指導の強化を図る。(昨年度約71%)	【努力指標】保健だよりなど情報提供により、視力検査・歯科受診率の推移をみる。	視力検査・歯科受診済の生徒の割合で判断する。【継続】 A 65%以上 B 55%~65%未満 C 45%~55%未満 D 45%未満	Dの場合は、学年団や部顧問と協力し、指導の取り組みの見直しを図る。	学期ごと受診結果報告書を集計し、判断する。 (7月、12月)

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
5 学校として、業務負担の平準化を意識する共通認識のもと、組織的に風通しよく効率的な業務遂行に努める。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。	各科・学年・各課	昨年度は、業務整理により時間外勤務時間が減少したが、定時退校実施率が8.6回であった。今年度もさらに業務改善を着実に進め、定時退校日の達成度を高める。	【努力指標】 定時退校日の達成度の向上を図る。	教員が学校で設定した定時退校日を守れている回数の平均で判断する。 [継続] A 12回 B 10～11回 C 8～9回 D 7回未満	Dの場合は、改善策を検討する。	教師を対象にアンケートを実施する。(12月)